

県内では、あまり例を見ない洞窟遺跡である「隼遺跡」。編集部では、発掘担当者へのインタビューというかたちで、現在判明しているその特徴を明らかにした。

——— 今回発掘調査がおこなわれた隼遺跡は、県内の調査ではあまり例のない窟の中の信仰遺跡ですが、具体的にはどのように信仰がおこなわれていたのでしょうか？

熊谷：大黒窟では、遺物が出土しなかったこともあり、どんな信仰形態をしていたのかは、はっきりわかりません。窟の形から、奥の段に仏像等を安置し、手前で護摩を焚き、礼拝を行っていたかもしれません。一方、大土窟は 18 世紀の江戸時代に、地元の人たちによって礼拝が行われた場所です。江戸時代には一般の人々にも信仰が広まりました。

——— 隼遺跡にみられる特徴は？

熊谷：2 つの窟のうち、特に大黒窟は鎌倉に多くみられる「やぐら」という武士の墓にとっても似ています。鎌倉とのつながりの中で造られたことが想像できます。



大黒窟の須弥壇。ここに仏像が安置されていたと考えられる。



今回インタビューに答えてくれたのは、発掘を担当した熊谷文化財主事。



土砂を全て取り除いた大土窟。礎石列や横穴が確認できる。(▼印部分が礎石)

——— 「やぐら」は県内で確認されたことはあるのですか？

熊谷：「やぐら」の確認は山梨県では初めてです。実は大黒窟のような事例は、山梨市万力の霊岩寺でも見られます。霊岩寺で今も使われているお堂は、大黒窟とおなじように岩盤に掘り込んだ窟を利用していますが、やはり奥壁に岩盤を削り出した壇が造られています。床を張り、お堂として利用していますが、大黒窟も以前はこのように利用していたのかもしれません。

——— 隼遺跡の発掘調査により、わかったことは何ですか？

熊谷：「やぐら」の確認により、この地域が、当時幕府が置かれていた鎌倉と密接に関連していたことがわかってきました。また、この地域には恵林寺や放光寺など、中世の寺院がいくつもあり、峡東地域の信仰の中心地であったことの裏付けにもなります。一方、隼遺跡の周辺には、他にも複数の信

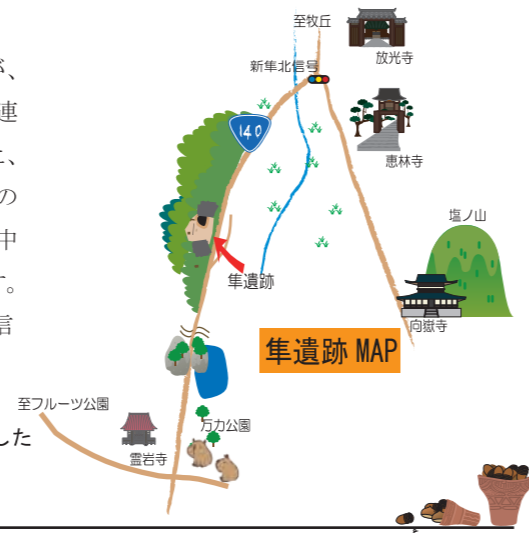
仰に関わる窟があるほか、牧丘地区には山岳寺院が発掘調査された袖口金桜神社奥社地遺跡などがあり、山岳修験が活発に行われていた場所であることがわかりました。県内の中世の信仰の様相の一端が明らかになったといえます。

——— 隼遺跡は現地で保存される方向で検討されています。今後の方向性について、考えを聞かせてください。



護摩焚きの跡と考えられている焼土

熊谷：今回の調査によって、隼遺跡では約 800 年も前からこの場所で信仰が行われていたことがはっきりしました。信仰の場が長く地域の方々によって守られ、今日まで伝えられてきたことは驚きです。今後もこの場所と価値を守り、次世代へ引き継いでほしいです。



『古墳で星空』

現在、埋蔵文化財の活用の機運が高まっています。その中で、旧暦の七夕である平成 28 年 8 月 7 日に甲府市曾根丘陵公園にある国史跡銚子塚古墳で開催した『古墳で星空』。考古学と天文学がコラボレーションしたところみでした。

古墳時代の人たちも星空をみていた

銚子塚古墳は、4 世紀後半に造られた、全長 169m、墳頂部の高さ 15m の関東でも最大級の前方後円墳です。

その巨大な古墳に葬られた”君”は星を観察することによって、時を知り、農作物の種まきの時期や毎年おこなう儀式の日時を決めていたのです。古墳時代の人たちも星空を見ていました。星の位置は変わっていますが、古墳の上から星を眺めることで、古墳時代の人々がおこなっていた星の観察を追体験できるイベントとして『古墳で星空』を開催しました。



今回のイベントで講師をして頂いた先生は高橋真理子先生です。星空工房アルリシャの代表。星とさまざまな分野、人をつなぐお仕事をされています。



平成 28 年 11 月 20 日に県史跡甲府城跡で開催された『ひらけ！玉手箱』の開催報告です。甲府城は、今から約 420 年前に造られ、現在の県指定史跡となっている甲府城跡、県庁、JR 甲府駅の北側までを含む巨大なお城でした。



年 1 回開催する文化財の最大のお祭り『ひらけ！玉手箱』。県指定史跡甲府城跡を会場に、盛大におこないました。

このイベントは、郷土の文化財や伝統、歴史に関心を深め、体感する機会として、今年で 6 回目になります。

当日は、江戸時代に城主であった柳沢吉保が、金魚を大和郡山に持ち込み、その名物としたことにちなんだ金魚すくい、お城の城壁に開いたはざまから弓を射る弓矢体験など、甲府城にまつわ

『古墳で星空』を開催して

当日は、県立考古博物館のエントランスホールにて、高橋先生による星空のお話とプラネタリウムののち、銚子塚古墳に場所を移して、天体観測をおこないました。晴れた夜空の下、天体望遠鏡 3 台を使って様々な星を観察しました。

今回の『古墳で星空』では、「古墳」に興味を持った方のほか、星に興味のある方々の参加が多数ありました。参加者の中には「山梨に古墳があるなんて知らなかった」と言う方もいて、普段古墳が身近でない方も、天文学との連携により、山梨の歴史をしるきっかけとなるイベントとなりました。

上コブケ遺跡（山梨市）

上コブケ遺跡 E 区の 4 カ所の調査区からは、縄文時代・古墳時代・平安時代の遺構・遺物が発見された。特に縄文時代の遺構・遺物が豊富に出土した。

縄文時代の遺物が集中した 1 区東側の谷状部分で発見された埋壘と呼ばれる遺構は、えなつぼ 胞衣壺や再葬墓と考えられているが、今回出土した埋壘はどんな特徴をもっていたのであろうか。発掘を担当した笠原文

化財主事は「その特徴は、底部が欠けており、口縁には別の土器の口縁部が、土器の内部には底部が逆さに置かれていました。さらに、底部の上には人頭大の礫が置かれた状態でした。」と語る。発見された状況から、「墓である可能性が高いと思われる。」とのことであるが、笠原文化財主事は「現場で採取してきた土の残留脂肪酸分析などの自然科学分析等を行いながら、埋壘の性格を明らかにしていきたいと思えます。」と述べており、今後刊行される報告書では、さらに詳しい分析結果が提示されるであろう。



西関東連絡道路八幡ランプ近くの側道が今回の発掘調査地点



発掘された埋壘